

那珂市議会 原子力安全対策常任委員会記録

開催日時 令和4年6月14日（火）午前10時

開催場所 那珂市議会全員協議会室

出席委員 委員長 武藤 博光 副委員長 花島 進
委員 關 守 委員 大和田和男
委員 富山 豪 委員 笹島 猛

職務のため出席した者の職氏名

議長 萩谷 俊行 事務局長 渡邊 荘一
次長 横山 明子 次長補佐 大内 秀幸

会議に付した事件

- (1) 議員勉強会について
…勉強会の内容について協議
- (2) 市民との意見交換会について
…開催時期や方法等について協議
- (3) その他
…市民からの意見に関する回答について協議

議事の経過（出席者の発言内容は以下のとおり）

開会（午前10時00分）

委員長 皆さん、おはようございます。

ただいまより原子力安全対策常任委員会を開催いたします。

本日の内容といたしましては、特段、執行部もしくは第三者との説明及び協議はございません。

したがいまして、議員内部での意見の交換ということとなっております。

開会前にご案内いたします。

新型コロナウイルス感染症対策のため、出席者並びに傍聴される方におきまして、マスクの着用、また手指の消毒をお願いいたします。

そして、廊下側のドアを開放してございます。

会議は公開しており傍聴可能でございます。

映像は庁舎内のテレビに放送しております。

発言の際は必ずマイクを使用し、質疑答弁の際は簡潔かつ明瞭をお願いいたします。

携帯電話をお持ちの方はマナーモードをお願いいたします。

出席者は全員でございます。

定足数に達しておりますので、これより原子力安全対策常任委員会を開会いたします。

職務のため、議長及び議会事務局職員が出席しております。

まずここで議長からのご挨拶をお願いいたします。

議長 改めて皆さんおはようございます。

ただいま武藤委員長からありましたけども、会議事件としては2件ということですので、スムーズなご協議をいただければと思いますので、よろしくをお願いいたします。

今日のご苦労さまです。

委員長 ありがとうございます。

それでは議事に入ります。

本委員会の会議案件は、別紙次第のとおりでございます。

初めに、3月の常任委員会において、今後の進め方について各委員からの意見をもとに、5つの項目をまとめまして、これからの委員会での調査、協議していくこととなっております。

その一つである青森県六ヶ所村の再処理工場の視察につきましては、来月に予定しております。

本日は、残りの項目の中から、議員勉強会と、市民との意見交換会について、委員の皆さんと協議してまいりますのでお願いいたします。

最初に、議員勉強会についてでございます。

こちらにつきまして、原発再稼働についての賛成、反対それぞれの立場の方を講師に迎え、全議員で勉強会を行ってはいかがかという意見。

そして、エネルギー問題についても話を聞いてみたいとの意見が出されたかと思いません。

まずはこのところからお話を聞きたいというところがありましたら、ご意見をお伺いいたします。

副委員長から一つの案が出ておりますので、副委員長から説明をお願い申し上げます。

副委員長 お手元にA4、1枚で配布いたしました。

なかなかどんな方が講師としていいかっていうのをいろいろ考えたり、若干調べたりしまして、容認派3人、批判派3人それぞれ、何ていうんですかね、候補ですか、提案したいと思います。

容認派からですと、山地憲治さんという方は東京大学名誉教授で、もともと専門は電気工学ですけど、エネルギー問題なんかに興味も強くて、いろいろ発言なさっている方です。1950年生まれ。

岡本孝司氏は茨城県の原子力関係の委員なんかも務めているのかな、最近は分かりませんが、務めていた方です。この方は東京大学院教授。

それから田中俊一さんは初代の原子力規制委員長、元日本原子力研究所の研究員で副

理事長もなさった方です。

それから批判派としては田中三彦さん、結構なお年なんです、もともと日立系って言ったらいいのかな、原子炉圧力容器の設計者などです。

福島第一の4号炉だったかと思うんですが、それが造ったら、真円に近くなきゃいけないところが少しひずんでいて、それを無理やり直すってことをやった方なんです。ね。

それで大変ないろんな細かい計算をしてやったんですが、そもそもそういうことをやっていいものかどうかということも含めて考え直した方。

この方は非常に何ていうかな、技術者として何かしっかりした考えを持っている方ですね。現在はサイエンスライターをやっています。それから、福島第一原発の事故の調査委員会って幾つもできたんですが、国会がつくった事故調査委員会の委員にもなった方です。

館野淳さんはこれ原子力研究開発機構のOBでして、元中央大学の商学部の教授です。専門は核燃料化学なんです、原子力全般についていろいろ意見を言ってきた方です。

小倉志郎さんという方は、あまり名前が売られてないんですが、原発に関わってきた技術者で、機械工学が専門なんです、原発が複雑でいろいろ問題があると。あんまりそういうこと言っている人が多くないんですね、私なんかそのタイプなんですけど、そういう観点からいろいろ意見を持っている方です。

それで、容認派からだったら一番いいのが山地さんかと思います。

何でかという、皆さんがエネルギー問題も関心があるので、原発と関連するエネルギー問題について意見を持ってる方ですね。

批判派も、田中さんか、館野さんか、小倉さんかどちらでもいいんですが、結構皆さんお年なんでね。

ほかの方をまだ考えてもいいかと思います。

以上です。言い忘れ、どなたもまだ打診はしていません。

委員長 今、副委員長のほうから一つの案が出ましたけども、皆さん誰かこの人はっていう方いれば提案とかお願いしたいと思いますが、いらっしゃいますか。

(「お任せします」と呼ぶ声あり)

委員長 お任せしますという声がありましたが、一応、事務局からもう1案、別紙出していますので、事務局からの説明をお願いいたします

事務局長 別紙でお配りいたしました、経済産業省の名刺の部分なんですけども、先日、防災課のほうにいらっしゃいまして、内容によってはお話しできますよっていう方らしいです。

具体的にどういう内容について、皆さんが知りたいかによっても、この経済産業省の

方が話せる内容と一致するかどうかっていうのは分かりませんので、まず何が聞きたいかっていうのが分かりましたら、そういう件で話ができますかっていうのはちょっと打診してみないと分からないってことです。

ただ、内容によってはお話しすることができますよということであらっしゃったらしいので、参考にお配りいたしたところでございます。

以上です。

委員長 今の事務局長のほうからお話がありましたけども、いろんな経済産業省、もしくは大学教授、もしくは日本原電の職員とか、今回、様々な方がリストアップされましたけども、こちらのほうで選んでよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

委員長 この件につきましては、容認派とそしてまた批判派ということで、二つの異なる対極からのご意見の勉強会を行うんですけども、何か特段、特にこれを聞きたいっていうのはありますか。

一応、二通りに分かれています。

積極的に原発を推進するのか、もしくは原発からの離脱を図るのかっていう両極端の話ですから、これを聞きたいというのがあれば。

副委員長 以前の話でエネルギー問題の関連なんか聞きたいっていう話があったので、それはぜひ入れたほうが良いと思うんです。

ただ原発安全か危ないかだけじゃなくてね。

ですから、立地推進でどういう話ができるか分からないんですけど、想定エネルギーの問題と、それから、やはり懸念は、事故が起こりうるのかどうか、どのくらいで起こりうるのかということと、それから、そのときどういうことが起こるのか。

どういうふうな被害が考えられるのかその辺が焦点になるかなと思いますが、それでどうでしょうかね。

委員長 ただいまの副委員長のほうからお話がありましたとおり、エネルギー全般の問題につきましてのお話も聞かせていただきたいということでございます。

こちらにつきましては、いわゆる相手方の先生の日程もございますので、調整のほうはさせていただきたいと思っております。

よろしく願いいたします。

では、続きまして、市民との意見交換会についてを議題といたします。

こちらにおいては、前回の委員会におきまして、昨年は市民の団体などからお話を伺った際に、市民の方が再稼働問題についてまだ関心がない、知識がないのではということでございます。

そのため、議会からの広報を含め、情報発信すべき等の意見が出てまいりました。

また、市で作成した避難ガイドマップに対する認識も少ないのではないかとの意見もあります。

さらには、賛成、反対の前にもう一度市民の声を再確認すべきとの意見もございました。

このようなことから、議会と市民が対話を交え、この原発再稼働問題に関心を持ってもらおうということが必要ではなかろうかということでございます。

よって、市民との意見交換会を今後、取組の一つに掲げたわけでございますので、どのような形で進めていくのか、皆様のご意見をお伺いしたいと思います。

この市民との交流会につきましては、議会全体としての市民と語ろう会の日程が、10月1日に予定されているのかなと思いますので、その時は、市民からのご意見は多種多様な意見になるかと思えます。

それとは別に、この原子力の再稼働という問題を、一つに絞った形での意見交換会となりますので、これにつきましてはどのような形で行うか、場所はどこにするのか、日程とかいつ頃がよろしいのかということについての皆様のご意見をお願いしたいと思います。

大和田委員 前回もちょっと述べさせていただいたんですけど、議員勉強会を積み重ねていくうちに何ていうんだろう、時期が決まればいいのかなあなんて私は思っていて、例えば先ほど、容認派と批判派の勉強会を重ねて、そして、先ほど、この経済産業省の人がっていう話、国の意見ですとか、県の意見なんていうのも含めて、勉強会を進めながら、時期が来ればというとおかしいですけど、これももう容認派、講師も来るのもまだまだ未定ということで、そういったのを重ねながら議会広報等で、これから発信をしていながら、時期ややり方を決めればいいのかないかなと思います。

以上です。

委員長 大和田委員のほうから、勉強会を進めながら、ある程度こちらも知識をつけた上でということなんでしょうけど、その辺り、一通り勉強した後がよろしいのではないかといいご意見でございました。

富山委員 時期は大和田委員と同じような考えなんですけど、市民とカテゴリーにしちゃうと、間違いなく、恐らく反対派の方々に偏る部分が、それが興味あるから来られるんだと思うんですけど、でも、ある程度フラットにするにはどうやったらいいかっていうのを、ちょっと考えていただきたいなっていうのは、前は業界団体ですから、動かすも動かさないも、そういう部分では、ある意味フラットだったんですけど、多分、やると興味ある方は間違いなく、反対派の方々がほとんどを占めるっていうのは大体予想できるころなんで、その部分ってのはどのように考えればいいのかっていうのはちょっと難しい問題かなんていうのは思う部分です。

副委員長 それ若干懸念分かるんですけど、ただ、市民の中の意見分布からいったら、再稼働に反対の方が多いいというのはいろんなアンケートなんかでも出ているので、反映されるのはしょうがないかなと思って。

それで、容認派の方が出てこないってことはないと思いますね。

むしろ、日本原電なんかは、そういう場に積極的に出て発言するような何かを意図持っているようで、実際組織的にどう組織してるか分かんないですが、ゼロってことはないと思うんですよ。

その雰囲気として、運営ですか、容認の意見もちゃんと聞くっていうような形をしっかりとればいいのかと思うんです。

それで何回かやって、あまりにも反対ばかりで、容認の意見がまるっきり声が出ないような状態だったら、ちょっとそれは考え直すという程度でいいかなと思います。

それから、時期については、大和田委員と富山委員から、見学と学習を積み重ねる中でというのは、私もそれでいいかなと思います。

ただし、先ほど学習会について言い忘れたんですが、まず基本的には議員が全員参加する、それから傍聴可とする。傍聴者は意見は言えないんですが、それも、いろいろ広報なんかでこういうのやりますっていうのを伝えていく中で、市民に関心を持ってもらうということも含めてやっていった後に、懇談会か、意見を聞く会みたいなことを企画したらいいと思います。

やるってことはもうほぼ間違いなくやるってことで。

委員長 今回の副委員長のほうから出ましたけども、この市民との語る会をするという前提において、まず広報でもってこの反対派、そしてまた容認派の先生方のご意見を一般の市民にも聞いてもらおうと、そのような形になるかと思っています。

そのとき傍聴者の方は私どもに質問できないかもしれないけど、それを一緒に聞いていく中で、市民との語る会を行うと。

流れとしてはそのような感じになるかと思っています。

あと、前回やったときに市外、市民以外の方も参加していたんですけども、市民限定とか、近隣市町村もOKってのはどの辺りを考慮しましょうか。

あともう一つ、この前、避難訓練やったんですけども、そのときに本米崎地区、PAZ圏、もしくは神崎地区の人たちがいましたけども、あの人たちはもう、確実に自治会長、そしてまた、組合長あげて、参加したエリアなんですけども、そのような人たちにも来てもらってお話を聞くとか、そういうことも考えられるのかなあというふうに思います。

その辺りのところ、どうでしょう、皆様のご意見を聞いて、市民と語る会。

副委員長 今回は、市民に限ってご案内したほうがいいような気がするんですけど。

市民の皆さまの声を聴く会のおきでしたっけ、市民以外の方のほうが何か多かったような気がするんですけども、一度その市民だけっていうふうに限定してもいいのかなっていう気がします。

それと、先ほど大和田委員からありました勉強会を重ねた上で、そのあとに開催したほうがいいのか、私もそれ賛成です。

原発いろいろ、流れが出ていますけど、そもそもエネルギーの現状、原発が動いている稼働でどのぐらいの需給をしているのかっていうのもちょっと細かいことは分からないですし、原発が仮にその全部再稼働したとして、どのぐらいの需給を賄えられるのかっていうことははっきり分からないし、その辺のエネルギーそもそもの問題も大いにこう勉強をしなきゃならないなっていう感じしているところですけど。

委員長 關委員のほうから市民限定、そしてまた、エネルギーにおける、原子力の割合とか、そういうのも知っておきたいっていうようなご意見でございます。

大和田委員 先ほど委員長から話があったんですけど、先ほどの本米崎地区のお話で、今年なんかはまたやるんでしょ。

いつごろなんですか、去年はいつやったんでしたっけ。

事務局長 今のところ11月の下旬ごろに実施する予定、まだ詳細決まっていんですけども、一応、11月20日頃にやるっていうことで準備をしているみたいです。

今回、筑西市まで運んでいくような形でやるっていうことです。

大和田委員 先ほど来てもらってっていうのも、もちろん勉強会とかね、傍聴来てもらうのももちろんだと思いますし、まあ避難訓練等にも感想ですとかいろいろ出てくると思うんですよね。

そういったのも我々がキャッチしていかなきゃならないのかなあとと思いますんで、方法はまだ先なので、我々も参加するとかいうのもあるかもしれないし、もしかしたら、邪魔っていうとおかしいけども、中心的な方々に集まってもらって、反省というか、いろいろ意見を出してもらったらなど、そういう作業も必要なのかなと思います。

委員長 分かりました。

副委員長 私は市民の意見を聞くのに、那珂市民だけに限るっていうのは全く賛成できないんですが、ただし、それは全てそうするっていうのは反対ってことです。

要するに関心の薄い人が多いから、その人たちが来て、発言してもらうことを促すために、那珂市内の方に限るといってのもやってもいいかなと思います。

その際は、先ほど委員長からありましたように、何人かにぜひご出席くださいみたいな、自治会関係の人とかに投げかけるっていうのも、やったほうがいいかなと思います。

あとタイミングですけど、防災訓練の後だったらそれはそれでいいし、前で関心を持ってもらってから、防災訓練に望んでもらってもいいんで準備次第だと思います。

どちらでも意味があると思います。

以上です。

委員長 この勉強会を重ねまして、語る会は、流れからいいまして10月か11月頃という目安になるかと思えますけども、今、大和田委員のほうから出ましたけども、神崎の避難訓練に、我々もオブザーバーとして行くのも、一つの案だと思いますので考慮しておきたいと思えます。

あと、市民と語る会につきましては、特にご意見ございますか。

(なし)

委員長 ないようですので、先ほど皆様からのご意見が出ましたように、市民の人を中心に行う、そしてまた、自治会の方にも出席の参加要請を行うと、そのような方向でやればきっとフラットなご意見が出るのかなあというように思えますので、その辺りもちょっと考慮していきたいと思えます。

これについてなければ、続きまして、その他の項目におきまして、お配りしています議会の広報において、委員会報告の中で、市民の方からご意見が出ておきまして、市民と語る会を行わないのですか、もしくは原子力について推進派のような偏りがあるような内容なんですっていうようなご意見があったわけでございますけども、ホームページの問合せがあります。

ちょっと若干説明しますと、この市内の方は、原子力安全対策常任委員会を常々傍聴しています。委員会では東海第二原発の是非について、今後も市民の意見の聞き場を設けることや、市民アンケートを取る方向で進んでいたと思えます。また、東京新聞、茨城新聞に今後、市民の意見を聞いていくとの記事が掲載されておりました。しかし、今回の議会だよりの報告は、原発推進派には都合の悪い、市民の意見を恣意的に排除しているというふうにも思われます。どういった経緯でこういう報告になったのでしょうか。加筆訂正していけただけでないでしょうかというようなご意見が来ておったわけで、その点につきまして、私どもは、この内容に、このような掲載はあえてはしてはなかったのかもしれないですけども、市民の声を聴く会で、このアンケートっていうのは多分、市のほうで定期的にアンケートを取っていると思えます。

その中で、原発についてどうのこうのっていうのはあったかと思えますけども、いずれにしても、当委員会では市民の意見を聴く会というのを設けるということが今決まっておりますので、内容につきましては、この次の広報編集委員会の文章の中で、このような意見を聴く会を開きますということも、明言しながら、次の広報には作成していきたいと思えますので、それでよろしいですか。

いわゆる今日、今審議した内容を文章化して、広報のほうに載せていきたいと思えます。

副委員長 私、委員会報告の記事と、ホームページに来た意見を両方見てちょっといろいろ考えたんですが、まずその常任委員会報告の中で、今後の進め方について協議って書いてあって、書いてあることは別に、何ていうか、間違っていないっていうか変な言い方ですけど。

ただ要するに、この委員会の中で、避難計画の問題とかいろいろ意見が出てますよね。

なかなかできないこととか、ほとんど無理だってこととか、そういうことが全然載ってないから、何ていうか、都合の悪い市民の意見を、排除しようとしているんじゃないかなと思ったのかなあなんてちょっと思いましたね。

これ自身、このことから別に排除しようって、全然そこに僕は読めなかったですね。

それから市民アンケートっていう話なんですけど、これは書いた人の意図は正直言って分からないんですが、今までの経緯からいうと委員長が分からない経緯があって、1度は賛否アンケートを取るって話になったんですね。

だけど、実際にやることをよく考えたときに、ちょっと時期がよろしくないっていうことだったと認識している、それで棚上げになっているんで、そのことを言っているのかなと思うんですが。

投稿した人の考えを聞かないとそこは分からないですね。

大和田委員 これは、この記事は、広報編集委員に入っているんで、前回の常任委員会の報告っていうことですからね。

ただ、一連の全部の流れの報告っていうわけではないので、今後、先ほど委員長もおっしゃられたとおり、今回出てきたのを、また広報に出して、次回出てきたのはまた広報に、そういった積み重ねていくっていうことが重要なんじゃないかなと思います。

富山委員 前回の議会広報の中でも、言葉の端々を、何かそのように見えてしまう部分があるっていうので、ちょっと思った部分が、前の再稼働に関する意見を任期中という、この部分なんですけど、再稼働の可否とあって、やはりちゃんと入れておかないと、誤解を受ける部分あるのかなっていうのは、前も何か議会広報の中であったような気がするんです。

再稼働に関するってのも再稼働ありきみたいなことを、前回はそれを指摘されたような、私広報編集委員の頃あって、5番のところですか。

再稼働の可否に関する意見をちゃんと入れないと、やはり、もう再稼働ありきなのかなという人もいたっていうのは何か前回、議会広報の中であって、やはり同じように指摘された部分があったので言っておきます。

委員長 前回までは、同じメンバーの別な委員が広報のほうに入っていて、そのときいろいろと問題があったのは承知していますので、今後このような、ちょっとセンシティブな問題ですので、その辺りのところは、慎重に文字を書きたいと思います。

笹島委員 今回の話なんだけど、この2024年、2年間延期されたよね。

それは日本原電からも発表してるよね。

それで、日本原電は再稼働ありきでしょう。

だからそのとおりに書いてあるんでしょう。

だって我々の口を挟む問題じゃないんじゃない、反対とか賛成かで何ともならないことじゃないですか、これそうでしょう。

再稼働されて、次に再稼働に関する意見を任期中にまとめますっていう、我々の話をしているわけですよこれ。

それで終わりじゃん話は、そこに反対も賛成もないじゃないですか。

我々の意見だもの。

富山委員 前回の時も誤解されることがあったらそこだなということで。

笹島委員 いや誤解もへたくそもないですよ。事実を書くっていうことが大事です。

それはね、何万人の中の1人か、あれじゃないんですから、やはりマジョリティーの話だから、そんな多くの人たちがしているわけじゃないし、やはり世の中には、何万人中の1人か2人いますから、それ一々そういうことを気にしたらさ、先に進みませんから、それが民主主義の悪いところなんですよ。

だから、あまりにも小さいことを聞き過ぎるということですから、日本の国力が弱ってくる、話をごめんなさい。

副委員長 再稼働に関する意見っていうのは、当然可否が入るのだと私は思っているんですが、ちょっとその辺が言語感覚の違いでしょうかね。

それで単純に容認だったら意見を出さないで黙ってればいいんですよ。

それだけの話だと私は思うんです。

だから、ちょっとよく分からない、正直言ってこの意見を出した方の、何ていうか、考えのめぐらし方は、直接話を聞いたほうがいいかなと思うんですけどね。

基本的に、とにかく委員長がおっしゃったように、市民の意見を聞いていくんですけどっていう話は、伝えておいたらいいでしょうね。

委員長 今回の各委員からの意見をもとに、この次発行されます委員会報告におきましては、先ほども述べましたように、市民との語る会を行いますので、ぜひとも勉強会にも参加してくださいっていう意見も付け加えながら掲載していきますので、その旨のご了解をお願いしたいと思います。

続きまして、何か聞いておきたいこと、審議したいこと、分からないことございますでしょうか。

關委員 先ほど、前に戻りますけど、議員勉強会は容認派と批判派からそれぞれ1人ずつ、合計2人呼ぶっていうことですよ。

どちら側を呼ぶんですか。

副委員長 前にも同じことやったんですが、そのときは一人一人ですべての日にやりました。

今回、この事務局に連絡があった、経済産業省関係の人だったら、場合によっては1人じゃなくてもいいかなと。

何ていうかな、一貫したが話できるんだったら1人で、十分意見交換、質問したり、こっちから逆に意見言ったりってなんですが、経済産業省というと一つの組織から出ているので、Aさんの受持ちとBさんの受持ちと違う部分もあるかもしれないので、その辺を考えたい。

これを見て実は、これからの話ですけど、先にこれを聞こうか、経済産業省から呼ぼうかなとちょっと思っています。

委員長と相談して決めたいと思います。

あとは別に1人ずつにこだわってないです。

ただ、やはり1人の人の話を十分聞こうと思ったら、さっき言ったように、普通の識者を2人呼ぶと時間的にかなりきつくなると思いますので、1人で行って、その分回数を1人ずつ、前回1人ずつだけだったんですが、それを重ねてもいいかと思います。

以上です。今のところ、心積もりを言いました。

笹島委員 勉強会をしたりとか、市民の意見交換会をしたりということ、我々も前からやっていますよね。

いろんなそういう組織団体とか何かそんな交えて聞く一方だけであって、これ最終的にこの那珂市議会はどういうゴールを持ってくるのかな。

走っているのはいいんだけど、ゴールをね。

委員長 ゴールについては、この議会だよりに出ているように、再稼働に関する意見っていうから可否だよ。

それを任期中の適切な時期にまとめますって言うから、委員会としてのまとめをするのがゴール。

笹島委員 いつ頃かな、それは具体的に、2024年の9月には再稼働始まると、そのあとゴールしてもしょうがないよね。

委員長 我々の議員の任期中だから、来年の9月とか、その頃じゃないですか。

副委員長 問題が難しいだけに、多分任期のぎりぎりになっちゃうと思います。

ただ、ぎりぎりでもいいというんじゃないで、もう少し早めて、それで遅れてぎりぎりになっちゃうかなと。

ゴールって言いましたが、前に古川議員がぐじゃぐじゃ言っていたことが、要するにどこへ持っていくんだってね、それは、まずきっちり議論した上で、皆さんで意見交換をして、それでどういう意見として、議会として出そうというふうにするっていうこ

とだけ決めてあって、ここで容認であるとか反対であるとかを、もともとこういう方向にっていうのを設定しないほうが私はいいと思っています。

もちろん私はずっと原子力のことを考えてきたから、自分の意見はありますけど、前提はやはりみんなで議論して、その中でいろんな意見を闘わした中で、結論を作っていくということかなと思います。

笹島委員 副委員長その結論をつくっていくというのは、再稼働に対して何をつくっていくの。

副委員長 一つは、可否の意見入れるんだったら、反対か容認かですよ。

それはどこかで決めなきゃいけない。

意見が分かれて、これはどっちに転げないなって言うんだったら、それはそれで一つですね。

笹島委員 そうですよ。

では、それが今言った、来年の9月ごろまでっていうことを目標にする。

副委員長 できればですけど、多分、問題は難しいから本当にぎりぎりになる。

笹島委員 ある程度の目標値を決めないと、ズルズルズルいってしまうような、もちろん、先延ばしは、我々任期中は可能ですけど、ですよ、委員長。

委員長 ですから、9月を目途にして、結果として12月に答えが出ると、あたりが大体想定される範囲かなと思いますよね。

笹島委員 そういうことを認識しながらの勉強会をしたり、市民の意見交換っていう自分らで心構えをつくっておかないと。

ただ、だらだら聞くだけって、聞くのは誰でもできるからね。

それで自分の意見をまとめるって意味なんですよ。

そのためにやはりそういう無駄な時間を費やしたくないっていうのが私の意見なんですね。

委員長 各委員、ご自分の見識とかご意見を、この語る会なり、勉強会などを通じて蓄積されたいいただきまして、来年の9月には、それぞれの委員が、私はこう思う、ああ思うって言うことを、ちゃんと述べていただけることを集約して、どうなるかを答えに出すと、そういうことになりますので、一応ゴールは来年の9月、遅くても12月には発表できるような形にしていきたいと思います。

あと何か、こういうことをやっておきたいとか、聞いときたいとか、ありますか。

ということで、早い段階で、各先生方からの勉強会を開催するという方向で、よろしくお願ひしたいと思います。

あとなければ、委員会としてはこれにて散会となります。

本日はご多用の折、委員会出席大変お疲れさまでございました。

以上で委員会を終了とさせていただきます。

閉会（午前10時42分）

令和4年7月7日

那珂市議会 原子力安全対策常任委員会委員長 武藤 博光